

水稻の生育状況と今後の管理対策（第7号）

令和8年7月28日
新潟県農林水産部

- ◎ 葉色は概ね維持されていますが、淡い場合は、後期栄養を維持するため追加の穂肥^{*1}を施用しましょう。
- ◎ 斑点米カメムシ類の被害を抑えるため、雑草管理及び適期の薬剤防除を確実に実施しましょう。
- ◎ いもち病に弱い品種でいもち病の発生が見られる場合は予防防除を行いましょう。

^{*1} 穂肥（ほごえ）：穂が出る前に追肥すること

〔7月27日現在の県内全域の生育概況〕

【指標値（生育のめやす）に比べた生育状況】

- コシヒカリ：葉色「やや濃い」
生育が早まっており、既に出穂期となっているほ場があります。
- 新之助：葉色「並」

〔気象予報と今後の生育見込み〕

- 7月27日発表の早期天候情報によると、北陸地方では、8月2日頃からかなりの高温が予想されています。
- 新之助の幼穂形成期は早まっており、出穂期も早まる見込みです。

〔今後の管理対策のポイント〕

穂肥施用

＜コシヒカリ＞

- 分施肥体系・全量基肥施肥^{*2}体系ともに、出穂期前に葉色が淡い場合は、追加の穂肥を出穂期3日前までに施用してください。

＜新之助＞

- 分施肥体系
2回目穂肥（出穂期12～10日前）は、適正量の穂肥を確実に施用してください。葉色が淡い場合は、早めに施用しましょう。
- 全量基肥施肥体系
葉色が指標値よりも淡く、急激に低下している場合は、追加の穂肥を実施してください。

水管理

- 根が養水分を吸収しやすい状態を維持するため、飽水管理^{*3}を出穂期25日後まで継続しましょう。
- 用水が地域全体に行き渡るよう、ほ場全体に水が行き渡ったら速やかに水口を止めましょう。

病虫害防除

- いもち病に弱い品種ではいもち病の発生に注意し、発生が見られる場合は生育時期に応じて、葉いもちあるいは穂いもちの予防防除をしてください。
- 斑点米カメムシ類の被害を防ぐため、畦畔・農道等や水田内の雑草管理を確実に実施するとともに、出穂期を把握し、適期に薬剤防除を行いましょう。

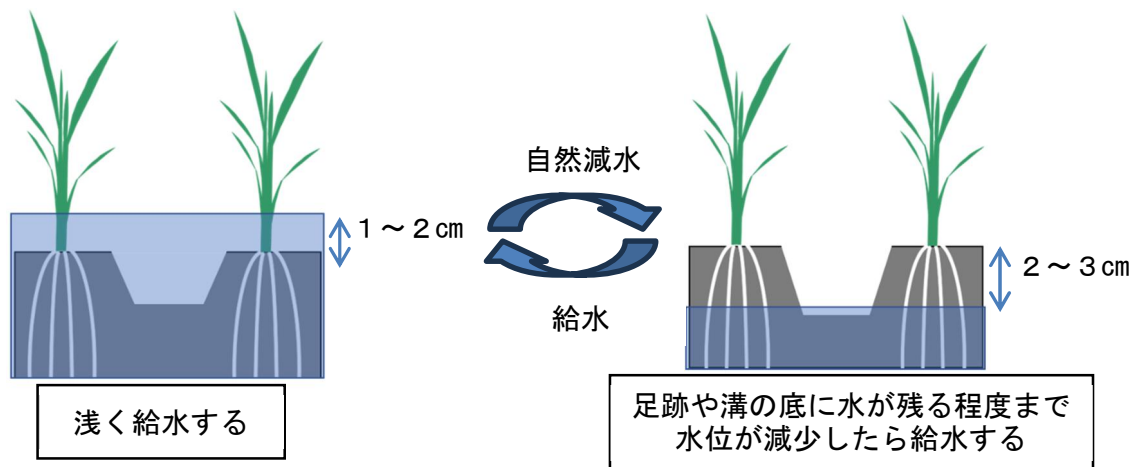
その他

- 大雨の際は、水路やほ場の見回りなどは行わず、作業者の安全確保を最優先としてください。また、大雨通過後においても、周囲の安全を十分確認した上で、排水や病虫害発生状況の確認・防除を行いましょう。

*2 全量基肥施肥：全生育期間に必要な肥料成分を、田植え前または田植え時に一括して施す施肥法のこと

*3 飽水管理（ほうすいかんり）：土壌を湿潤状態に保つこと

飽水管理のイメージ



熱中症予防

- 気温が高く、特に湿度が高い場合は熱中症発生のリスクが高まります。
- 農作業中は、定期的に水分・塩分を補給し、帽子等で直射日光をさえぎるほか、暑さ対策用品を活用して身体を冷やすなどの熱中症予防対策を必ず行いましょう。
- 気温の高い時間帯に作業しない、単独で作業しない、休憩はこまめにとるなど、十分配慮してください。
- 1人で作業されている方に対しては、周囲からの積極的な声掛けをお願いします。

農作業中の熱中症を予防しましょう!!

暑さを避ける

高温時の作業は極力避け、日陰や風通しのよい場所で作業



こまめな休憩と水分補給

喉の渇きを感じる前に、こまめに水分・塩分を補給



単独作業は避ける

複数名で作業を行う、時間を決めて連絡をとり合う



熱中症対策アイテムの活用

帽子や吸湿速乾性の衣服の着用、空調服や送風機の活用



7月～9月は“夏の熱中症等対策声かけ期間”

キャッチフレーズ:いのちをうばう、夏のひとり作業



農作業中の熱中症死亡事故の多くは1人作業で発生しています。

大切な人の命を守るため、
家族や地域で声をかけあいましょう!

出典：農林水産省「熱中症対策パンフレット」より

○ 今後の管理対策発信予定日 7月31日、8月20日

〔補足資料〕

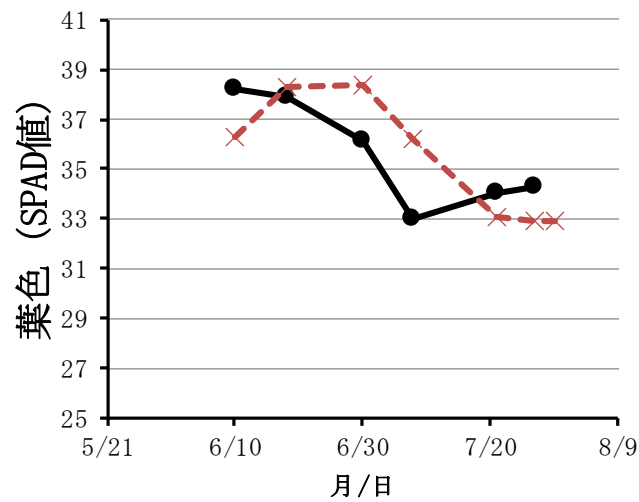
1 農業普及指導センター及び作物研究センターの生育状況（7月27日現在）

コシヒカリ

葉色は指標値（生育のめやす）に比べ「やや濃い」の状況です。

項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
葉色 (SPAD 値)	34.3	32.9	やや濃い	+1.4

注) 県内全域の14生育調査ほデータの平均値（田植え5月11日、栽植密度16.9株/㎡）



● 本年値 -×- 指標値

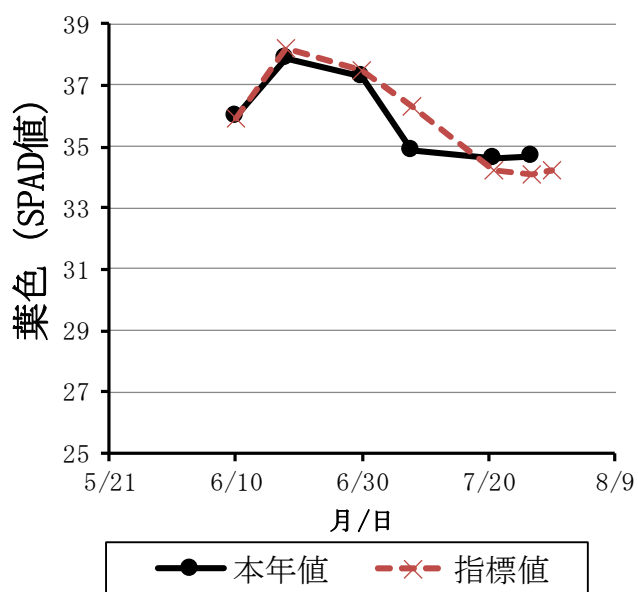
葉色の推移
(県全体)

新 之 助

葉色は指標値（生育のめやす）に比べ「並」の状況です。

項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
葉色 (SPAD 値)	34.7	34.1	並	+0.6

注) 県内全域の14生育調査ほデータの平均値（田植え5月19日、栽植密度16.1株/㎡）



葉色の推移
(県全体)

こしいぶき (参考)

葉色は指標値（生育のめやす）に比べ「濃い」の状況です。

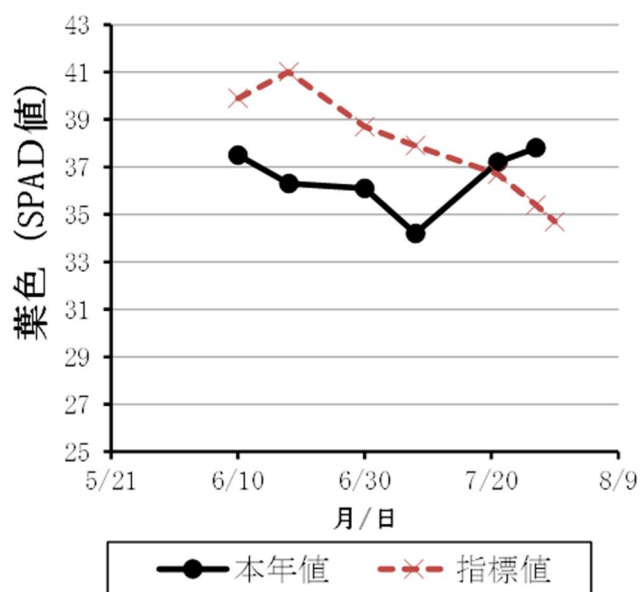
項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
葉色 (SPAD 値)	37.8	35.4	濃い	+2.4

注1) 化学肥料栽培。田植え5月11日、栽植密度20.5株/㎡

注2) 基肥窒素成分量 3.0kg/10a、穂肥窒素成分量 3.0kg/10a (1.5 kg×2回分施：1回目7月3日、2回目7月10日)

注3) 幼穂形成期：7月3日、出穂期：7月21日

注4) 長岡市長倉町（作物研究センター）の生育調査ほデータ



○ こしいぶきの幼穂形成期と出穂期

	本年値	前年差	平年差
幼穂形成期	7月3日	-1日	-3日
出穂期	7月21日	-2日	-6日